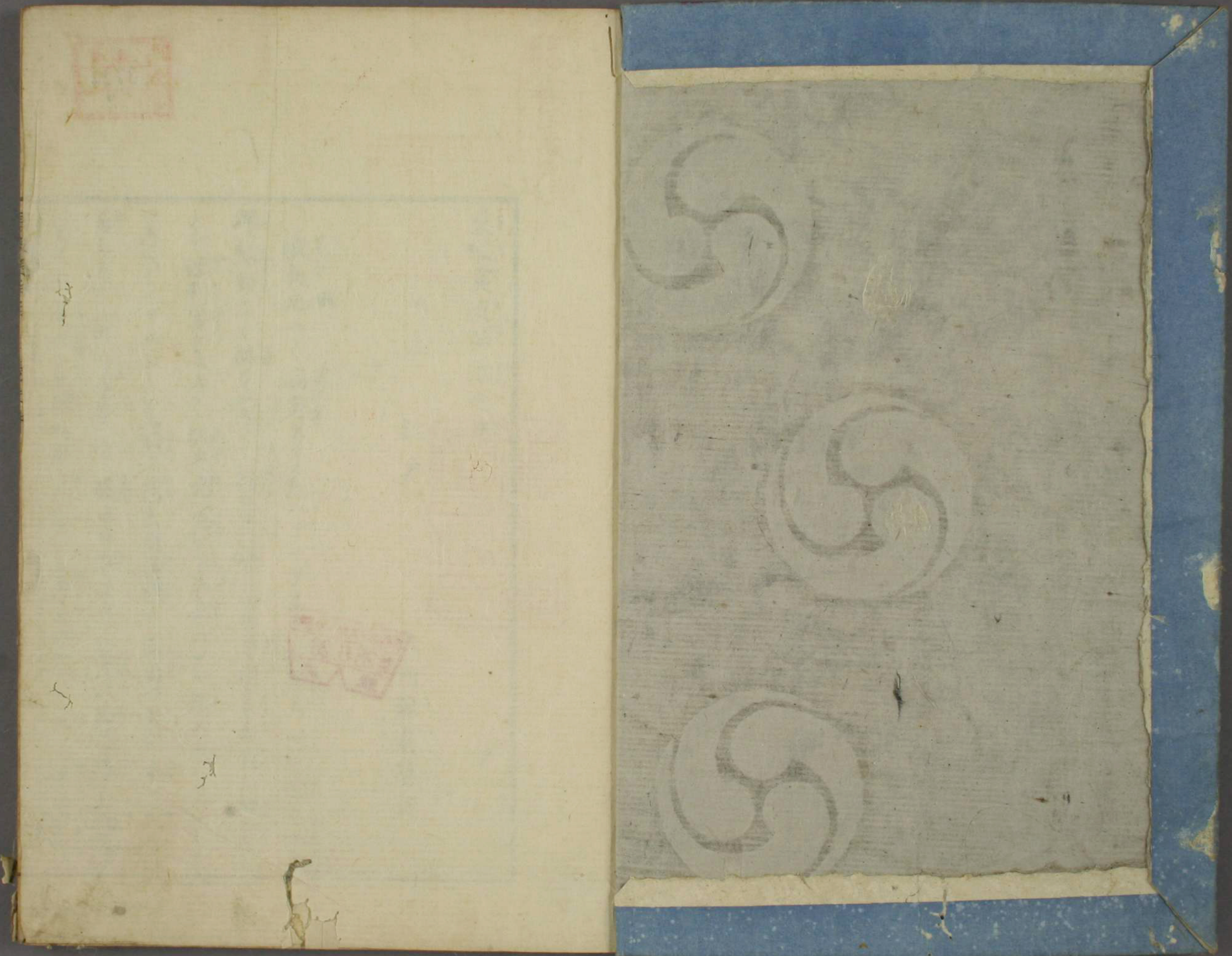


東蝦夷夜話

中

ル 4
3724
2





門 九生
 號 3724
 卷 2

東蝦夷夜話卷之中



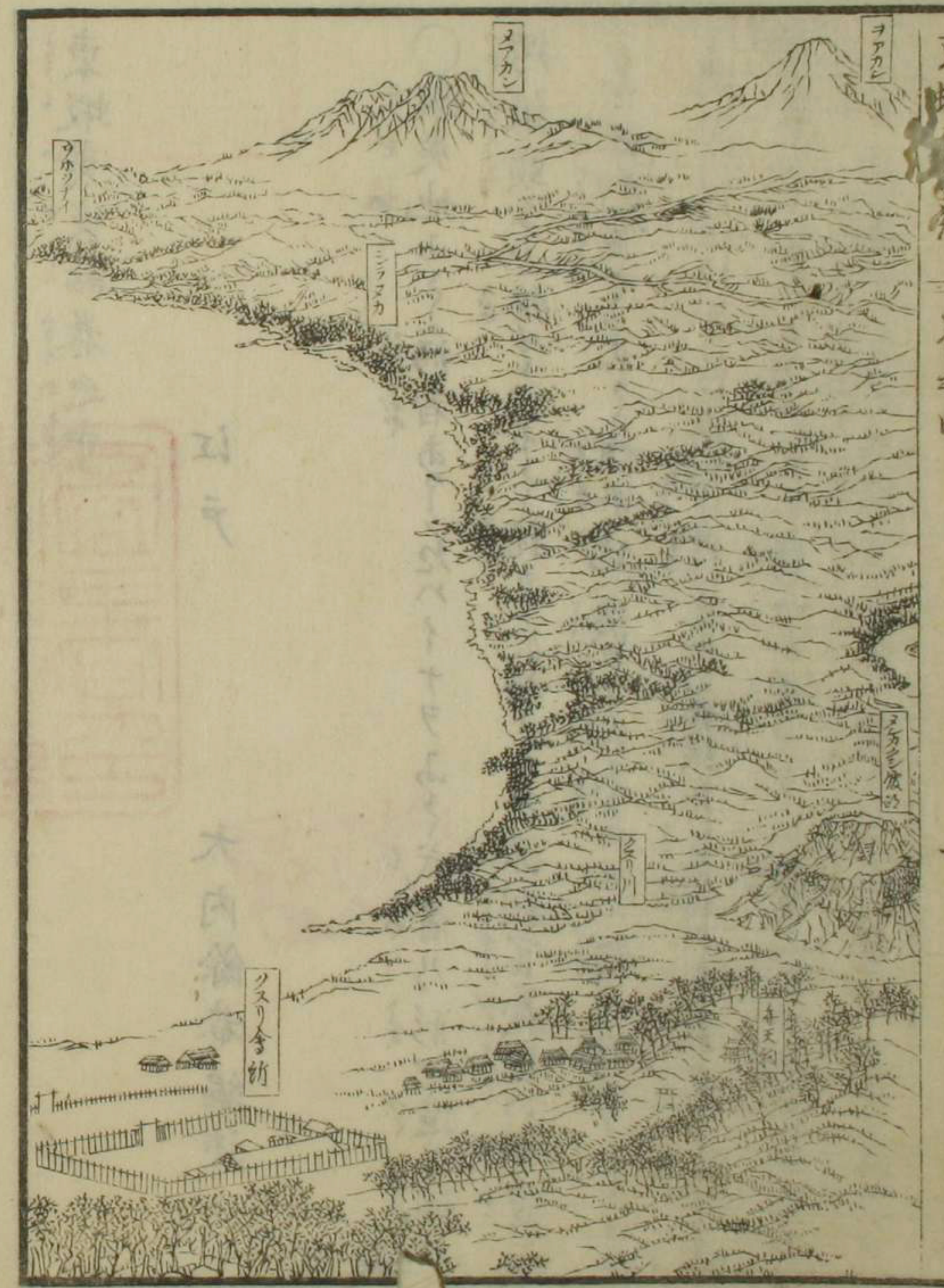
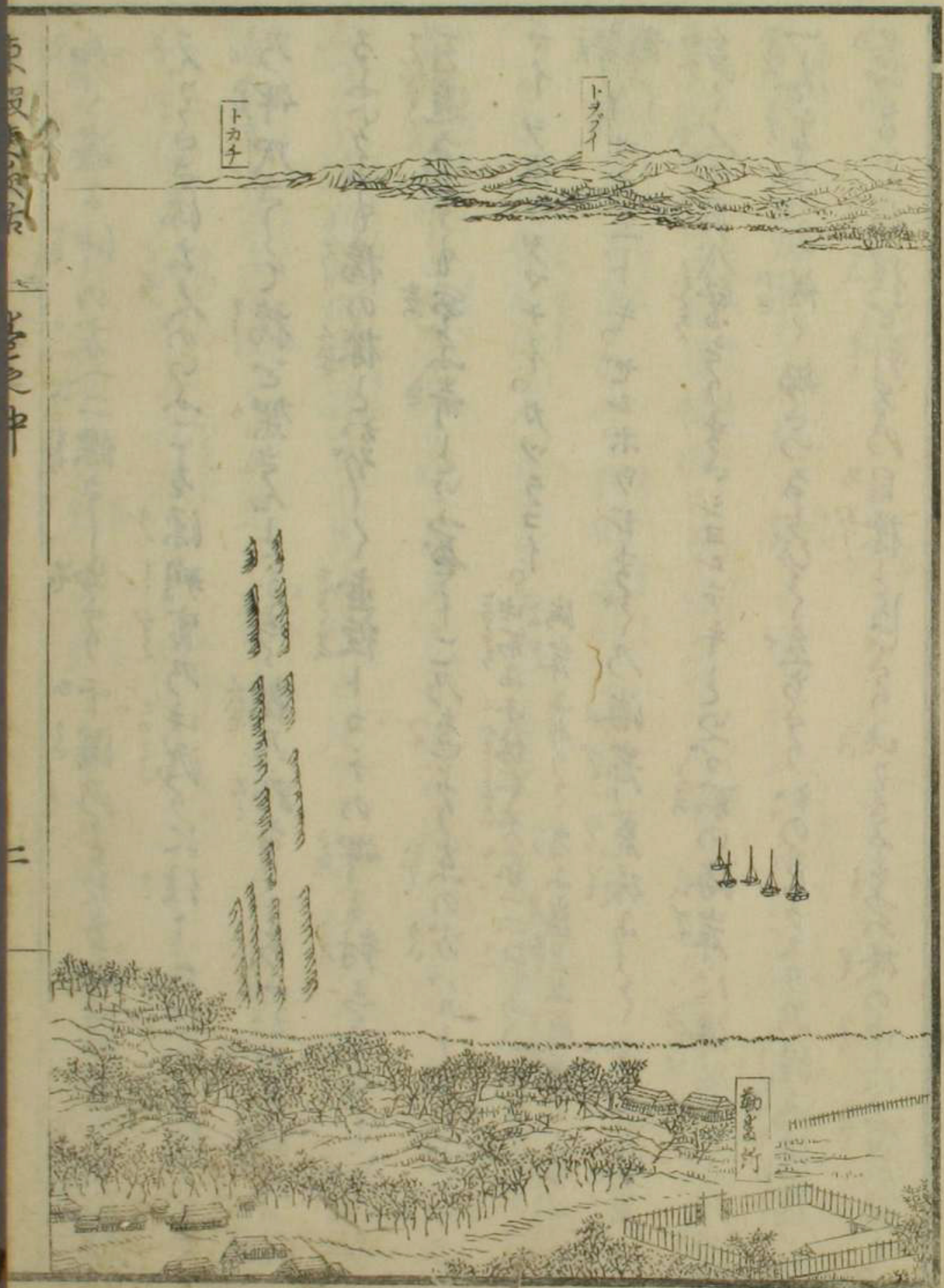
江戸

大内餘菴編述

東蝦夷夜話卷之中

○蝦夷地えぞちみく病者ひやうぢやありたるハイナヲみく武者むしゃ乃形なまがたと造つくと佩たもとる
 鰐うしほ縁頭えんづらなど飾かざりつゝまぐ枕まくらをたに掛かけこゝる深判官ふかはん義經よねつねの神靈かみたまこ
 とを深判官ふかはんよりみく蝦夷地えぞちへ渡わたりて今いまのサル領あき乃内うちとヒラトリコト
 二乃ハイノサウシといふ形かたちを落おちつき其後そのごを東西とうざいの夷地えぞち處ところを定め
 居あらむつゝものこと又またえクスリ領あきを男おとアカンの著あに野狐おと毛けをたす
 クスリ乃海中かみちう荒塚あらかぶ崎さき多おほくまぐ岸きしを不ふ法はふけりその中なかに繁つがき恒つねの

早稲田大学
 第25.6.26
 蔵 赤



如く遠く沖の方へ二條きりゆき干瀉乃と死をあらうと出く頭
えとさ体去人のりふこる深判官乃は瀉りに住まひくと死トカチ
乃俾次さく橋を架さんとあき株乃助さうとのふおのきりえ
るふいうちも橋の株とおびく壺徑トカチの俾子對きさうゆき
と造るがうも愛ふ奇とゆき一こ乃さより東の方ハルトヲロ。ポンゴヨ
マイ。ラカツマナイ。カツラコイ。此所小体不考家二形あり海戸もこの
海岸ありて小崖と小窟居を鼻叫の
マタエトキ。ゼレポウジまぐ乃海岸荒塚ゆき奇石怪炭を
多く人の目次警さうまてシヨコテキとりの海岸に俾像のど死炭
一もさう一も修くぬらうらびくさちさうおの目クスリ乃燈返俾炭と
名づもく初程を計る乃目標とほしりゆきとやま破の中このに石炭掘く

を登くとトカチ傾よりクスリ傾まぐの内ら海瀬とも石炭多かりて
今度エラヌカあく石炭と掘きらるに坑内九三百間ふむじとる
あははとのふは物唐慎微の本草ふのふ本壁とゆめあまく明の李東
壁乃綱目ふ石炭とゆと阿部喜任かをたり
○クスリ乃會和許ふメンカクミとのふ乙名あり今を庄屋の辨をたぬさう
名次精一希と改めらるぬこのあクスリあく叔代連綿たる去人あくと
みづら深判官の子孫さうとのふあさ死アツケミ知孫小野氏精一希と
近くまのきよ酒まどあさく種と物とあまさむらうち小野らじ
いととけら汝行てふ流接あきて判官乃子孫とのあやそのあまは
きあまやるとゆれたは精一希修とさあわわ小使もを登らぬとも

叔が遠祖一人乃娘として判官にまゝなるが程をこゝに流るるは故に
まゝく男子と産をまゝそが正統こそは精一帯をけりしと素より文字
てふ力のゆゑ秘書わく傳ふべきより多く唯判官よりより傳ふたる
一婦乃短刀のゆゑ兄弟書ふたふえさるるやと歎ゆ不さび一子相傳の秘
物みくゆるうとのよ小野氏いふは歎ゆと秘書にまゝのよの思ひまじけし
いもまゝまれ一読せんことを清り目とるる精一帯のゆゑの地をみるは
いむむまゝ実まはせしあり因く高領中男アカコ乃山を判官との祚靈
まゝをみふふまゝとむとのふも其幕へまゝをまゝうまゝのよと判官の
乃寢る花影とく今よこことあるはむ其幕幕まじけしれうちとら化
人の入るは禁ト禁まゝ短刀をえんをまゝぬらんと約りるより其故のよと

おのまきうばして彼の地とまゝまゝなり夷地なりとよそ文字ありねば
古老乃口碑は傳ふる地を流しとまゝまゝとよそまゝと木取あり秘料の算
動のよと死の脚も遠ふとまゝ算盤わくまゝとるる人却て慥るるまゝ
わく漁場を買はれまゝとるる急度いひ傳へて故乃世まゝも忘失まゝこと
まゝく祖父或の曾祖父乃時何れは鐸ありいハ佩刀をて買はせりまゝとシヤ
毛筆のまゝ入るまゝいふゆゑんとまゝまゝ中まゝに動をまゝまゝと思
まゝと死ハ柳樺板の梓は傷つけまゝの繩をむまびて標とまゝまゝと一色永
吉州乃佐里後とまゝる小杵次楠と繩をむまびく内外と定むるまゝと死
柳條とまゝといひまゝふおの流るる勢舞まゝとまゝまゝ精一帯の故に地領と
まゝまゝの一代は一度クスリより更の方まゝまゝ七七日とまゝとまゝ子モ

百八頁
四

口傾マコウ不降コト其マシウマシウとのふ言クワンふありやをんぬ十町可削サキ嶺リウ千尋チン頂テイを
馬ウマの背セ乃シ如ニく一歩イツ坎カン少シウもあやまを六ロク救クウ十ジュウ仞ニの背セ底テイへカ轉テンびビ落ラクつツとトるル落ラク山サン
るルは頂テイをかカいイく必ヒツ態タイと勝負シヨウ坎カン決ケツまるマルとトるル既シ一イツ帯タイハマシウ乃
頂テイより大ダイ態タイは端ヘより出デ合カいイらラかカいイく覚カク悟ゴのノとトるル其シはハ梅バイ一イツつツ面メンの
まマく持チつツるル弓ユウ矢ヤとトつツまマりリ一イツ矢ヤ盡ジンたタとト射シャつツけケが態タイををこコとトも
ふフさサびビまマちチく怒イりリのノ搦ニツとト摩マんンとトあアまマとト精セイ一イツ帯タイハマシウ乃
坎カンかカえエ態タイ乃シ背セ中チュウへヘひヒらラりリとト踏フミぐグりリ腰コシ帯タイをを短ダン刀トウとトもモわワくク技キて
力チカラ坎カンきキををあア巻マキもモ透スとト刺キつツるルもモりリ態タイへヘ負オシるル吼ウチてテ狂キヤウひヒマシウのノ山ヤマ
乃シ終シュウ頂テイをを足アシ踏フミむムつツとト救クウ十ジュウ仞ニ遠エン下ゲるルカムイトウへヘ影カゲかカまマをを
くク轉テンびビ落ラクつツとトるル精セイ一イツ帯タイハ馬ウマのノ教ケウとト共トモひヒくク本ホン意イるルきキをを地チのノまマをを

ふも初ハツメ矢ヤ乙ニ矢ヤとも急キウ取トををたタぐグををまマ短ダン刀トウのノ刺キるル由ユ淺シヤクもモ六ロクあり
がガまマにニ精セイ一イツ帯タイをを索ソクめメススリリ一イツ帯タイをを推オシるル惟タカ彼カもモ搏ウチつツるルをを
されレ一イツ代ダイ一イツ度タクのノ功コウ業ゲツ空クウとト且カこコびビのノ熱ネツ功コウもモあアのノ泡ウタとトありぬヌるル
とトくク深フカイたるル岩イハ稜リョウもモ子コ坎カンかカけケ勢セウにニまマりリ幸サイうウじジくク降クワりリ登トク一イツカムイ
トウのノ意イ坎カンあアかカとト搜ソウ一イツ帯タイをを小コ態タイををいイつツ地チへヘ落ラクらんン乃シぎギりリさらラふ
又マタこコぎギをを採サイ二ニのノカムイトウをを子コモ口コ領リョウのノニシベツとトススリリ領リョウのノマシウ
とト乃シあア山サンさサきキをを周シュウ也ヤ九ク二ニ里リ可カのノ湖コあアりリくクあアのノ流リウはハあアまマがガマ
水スイ乃シ方ホウ三サン里リ隔カクてテ又マタウウといイ入ニ沼シマありリあアまマあアのノ湧ユウきキ出デるとトいイふフ夫フ言ゴン子
あアまマニシベツ川カハのノ水スイ深フカイとトまマりリ甚シヤク窄ヤクたタ沼シマあアまマとトもモ測ソクらラきキとト何ナニれレどドら
岸キりリがガはハとトいイふフ彼カのノカムイトウををこコのノヌヌ乃シくクふフあアりリてテあアまマらラ横ヨウ



宛ありてはもまきし御き成ちるはつとある精一希乃マシウ山ふと博とや
 多る態者矢二筋方におひまがたニニベツ川の下流なるニニベツトといふ所へ
 流は出くるとしつり其市かへ熊乃身におひ一矢の至クスリは乙名メカ
 クニ乃標ある成りくちまあるより子モロの去人若事とつとぞ彼のカム
 イトウ者地中成溜りく二墨をへぐくニニベツ川の名保なるヌウ小達なる
 ののやあらんとは乃と死すれあく去人もあまらるり精一希が長子名
 成ノツイサニといひ一が今ハ能知花とあらんあまらりぬこころ己の二十
 又素勇悍捷驍父は劣らぬマシウ山ふと熊と勝負成せむる業も
 ちや早やとつとを精一希ハ齡六十ふあまるとも筋骨いまも衰へむあ
 仕年乃時ふあまらびきまは云ふ不ぬ乃を扱ひも平去人と一列あはび

頃中りものひ年滿乃事おると死をチヤラシケと喝く理屈といひ
 是理と乃く幸代法むる小風はぬを孝乃とく一云は向も情らふあま
 ところ愛はクスリ法のを初小田井系一のふあり子モロとクスリ此頃
 境と接と 城見分のふ成を精一希其外去人城引具一食物卧具を
 用意して安政四年乃正月二十日クスリ此御致宅城ちまつ時一も後
 聖教十尺珠一高己年を近年に移る大聖つり乃るに志るも又日め七日
 め不どふ際り移る言乃あふよとく入元二丈のやあらん四月より二月お
 ころの跡ニ跡をのちのちの最中みくき成さびく堪へる死とら
 るるふふと後聖乃よ城城ち沼川を水と涉る日暮るんとき且ぶそ乃一知へ
 丸小倉と補理とく宿屋とまきに上下田舎を小理の是成のちの跡まき

かひ漂々としてききもこぼれて甚志く立樹をら海割る事乃きこえけり
又化中近友氏の書翰をよみたまふ由をききのさふふをききのさふふをききこころを割るとていふ
あゝ其終ひこころそが中け何れのみろ雪踏みし来たる者乃とてくはは小田井也
たゞ一研りお中をいつるところ乃おふあつと丸小倉の内よりひそかふ窺ひ
みしとて大寺の馬をどめやあらん白き斑毛生ひる程とぞ雪乃ぬりに去
且ける小田井の法らしく思ふかう今浅砲めくお捕るべきに容易く
與少ふく一と宵ハ定まて追まてぞけ聖日乃長あらしを捕りてまんと然
るりと獨らぶべき誓款をまぐら例る新とてく燃一たるは燭の老を
にかそとらんは法ちしゆまゝ其後の影がふんてはあつとふたりゆさうとそ
うち我をぞどののみくめまも是れ見れば志きりに降り志きる雪小風又深

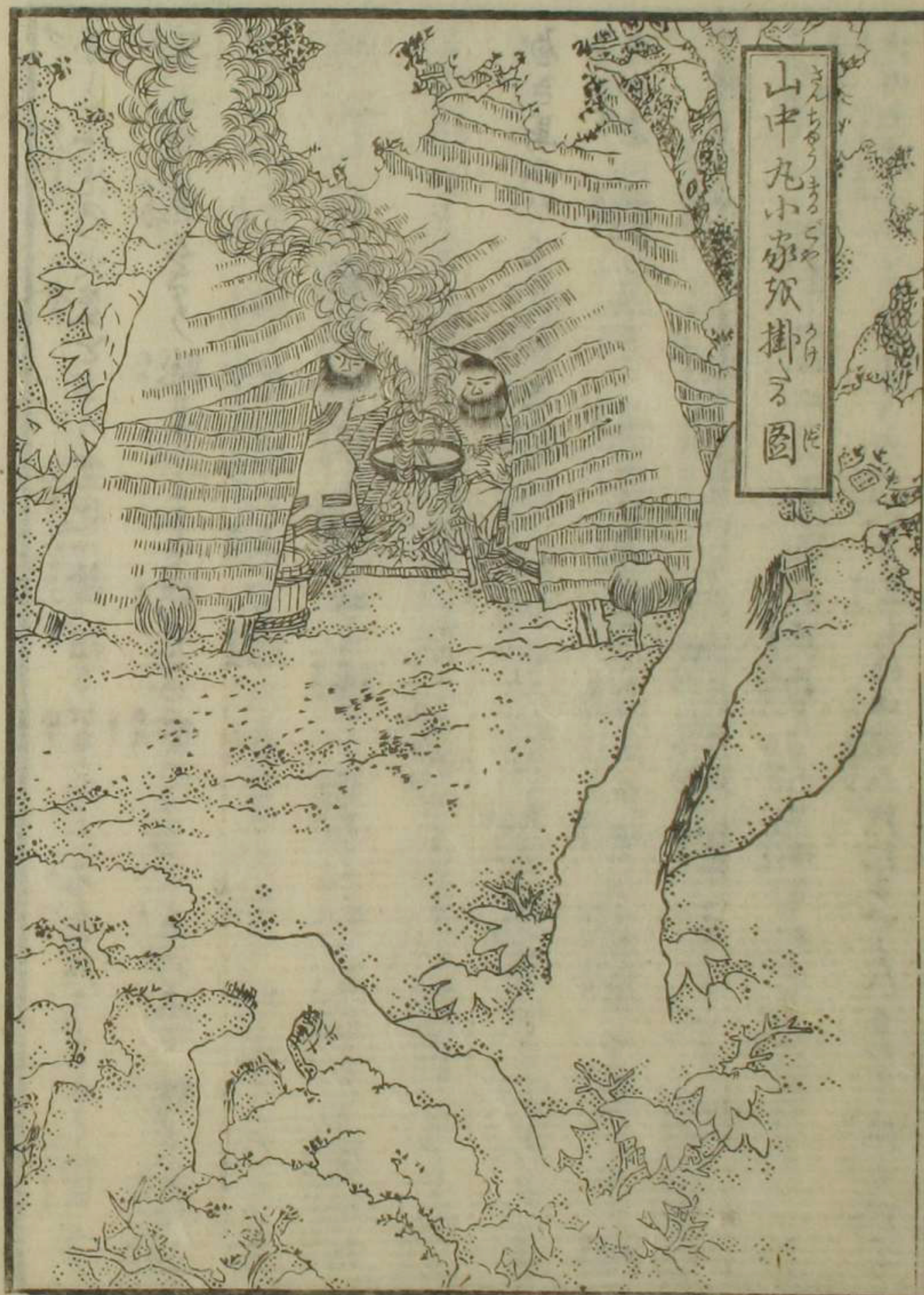
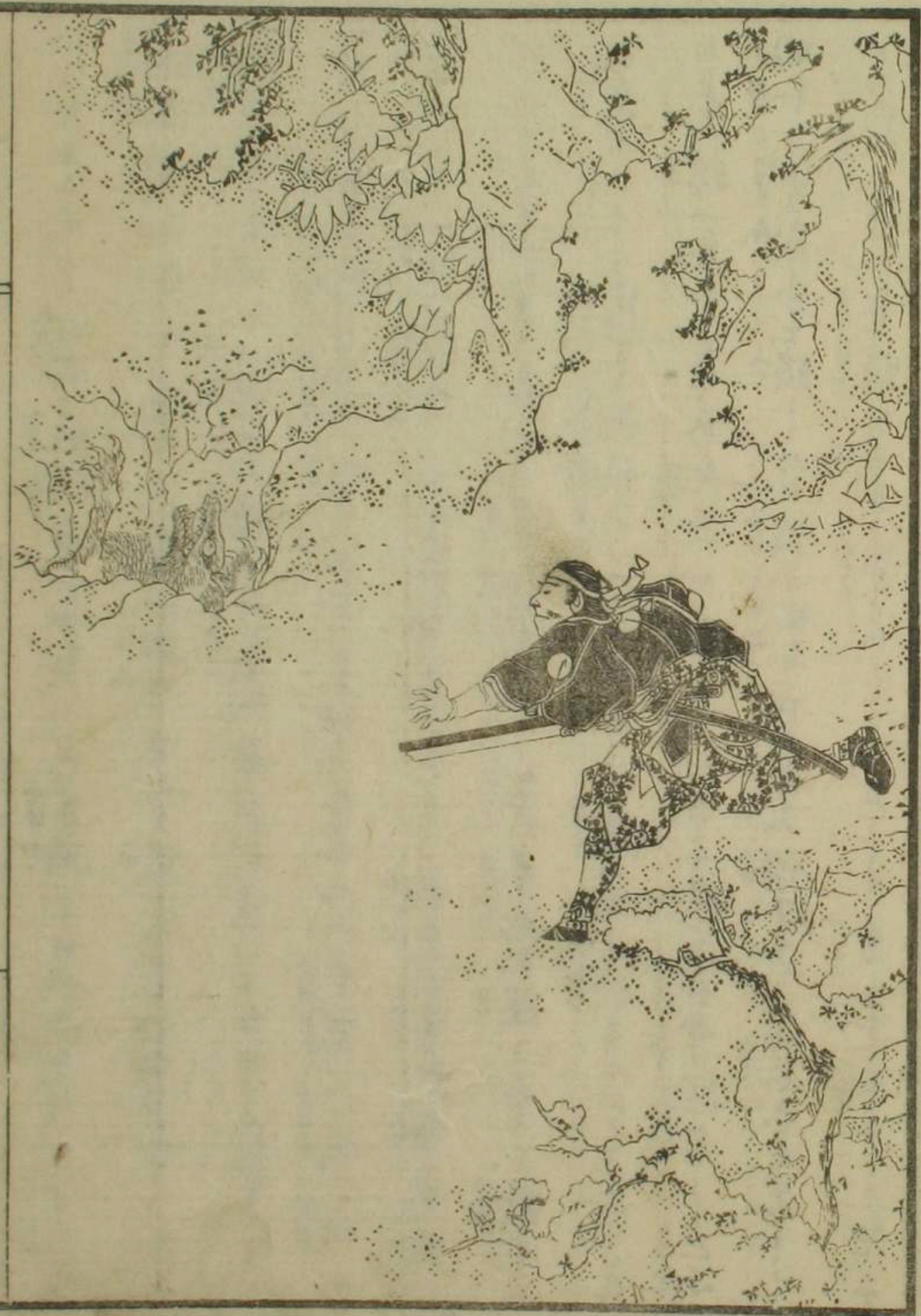
乃且はは月もあらに運道とさだめつ精一帯その外此夫人等ふりつるや今日
もまのこ乃雪ふくくおまぢぢぢ一さらあはれと小倉の内におまをて終日踏る居
ておまを業まきも徒然あり佯倅するふか今宵も果しくよ魚乃カムイ乃まう
あん其討こそ生捕りて牽力く降らぬそのまをかうの雪中一帯吹掃りて
いと深かくとらをも易ゆらんといふを糖一帯とておめ娘更替の徒然とてく
言ふふろくかあやとくひひらひをまけりゆらぬあつとて決まて雪用はまを人
かへり且て化乃歎とちひ神愛不思議の猛歎みくまのよく難と集むるもの
今愁りあらぬまゝ一人はなをニシバ且船といふ奴もたれちヨラカイウタレ私いふこと
一同生くる降らるまどこの地あゝの如き奴さうてりセカムイとて雪称あゝ歎
まうらも神と称しそまのニシバが神ありあをわかのカムイとてを捕りもせえ

東段巻終
終之神

ひらけし出する為しひそと信引く者まひ乃あらざるは其因小田井の
懐然とて聲とまぢま一船走し向つてひも休せう臍甲變なきえみり
よ人の美物乃靈とこそ之汝等もそも五体具足の人ならむや丈夫の氣も
さふあらば候令かどめが幾千百の群とあまも何の望もさうあらん
砲もあらにあり矢種玉系乃そと死をあかどりく藏よさんと元夷のそ系
ふとまありを獨丸小庭と立出んふ六歩を登りて霏と揚り仕掛とまうしを
けし目もまや西よ入ふに流るり小田井と看とひびき丸小庭乃
因よひそみ指く更閑るとぞまぢまらうらるか乃狼者まうてよ魚のこ流とあ
まくまうそまうそあら然うかみやを城元夷あまそとく目と目と見入る
例のイナラ城別とく立ると頻よカムイとあまると小田井のこまよ

とと残砲の火蓋ときり空砲一撃鳴り響くを不意然うとく振ひつ
足みあり花さう跳しんとさる踏この雲のさうさる顔は落る程
こそあまそと均く振ひ奔の底を踏び落る小田井のけうりこ丸小庭より
骨多うさう躍りて穿の例はぬと踏り花あがんとまを不と残砲火
めてはけさまお替たうが振よかぢの小田井まうと目ぼくをわつと振よ
登き馬ふひと死振も勢弱して倒れられ元夷よ命まうしを命させ
丸小庭の例へひきめくまうらま乃と死元夷の中ふ豪傑とよらびとる精
一帯も小田井の子孫は壽のまをと城走陣興以来ラキリマイ
とていもクスリ乃ふおニシバと死の英勇のえも固もかよを後こままでシヤモ
地之士達とふこらこら乃ふもあらはは保ふ死たよといひまらぐ城走地を

東照公御遺徳
御遺徳



山中九小亦須掛方圖

とまむの月挑うが歳とかなる聲とひとく輝状行もふ振るう
 完乃とよぞいあぶる小田井も其時莞尔と笑ひ我あやまらりりせう
 實ハ你ガカ何やとあるなり又んははるのま決まわくふかりひら
 そとのそ精一帯淑笑ひあがはるるをいふとどの力業ふらふいふ
 人ふ六浪るなりと風雪乃銀若志のびどらが中みも勢のどれたまむを
 るくく兵トらうとぞ小田井も地名境抗その化れ酒へまらまらあり
 二月十八日クスリ川の上流より舟松あま川城りるにトラ口と不
 ふ若松あまふく魚物とさうクスリ乃津段宅へ海り若きたつ二更
 乃こ海うしとぞとより公乃ふさといひひらり人跡絶えり深ふ山
 まく雪中の風景凜冽といふぬるる一杯の女のふははるるこの勢

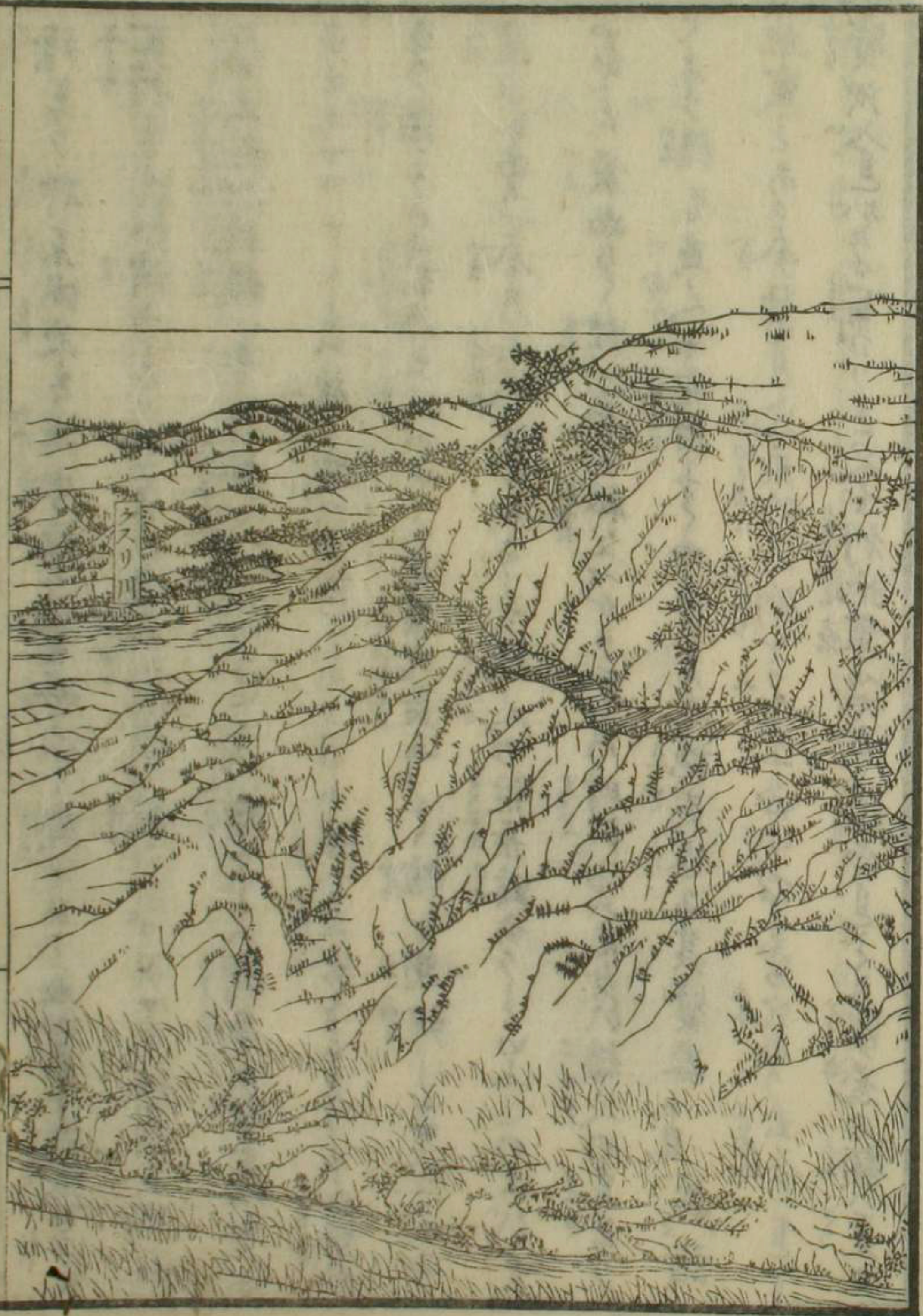
業るを小田井まの兼のやと二十次二にも振えらん波濤と海り臨瀝と
 よち跋渉いふ限もま一途ふ意と海夷城小潜む宅も其勇と
 つく且弱冠より京都乃諸大衆は遊学と武術乃奥秘ときをめ
 りむら練神と唱う小野派の撃劔とさうと槍法を宝花院の流と
 以て聞え着く人乃ある取る目今まらるに贅まび

○クスリふメンカクニ 兼一帯の乃館趾とくシヤニコツとらふ不ありあら
 会所許よりクスリ川は傍ひく九七八町可由き有る乃丘へ此がまま五
 町可也る丘のま中に凡五俣のやあらん圓丘城なりたるとこ海あり頂ハ
 平垣ゆく僅に二十歩ありまも盤旋とくる勢へくあもまは
 あり麓の濠と二重みま也其内は一族麾下聚落をまらる其地明り

東假表依古

地之形

廿



東假表依古

地之形

廿

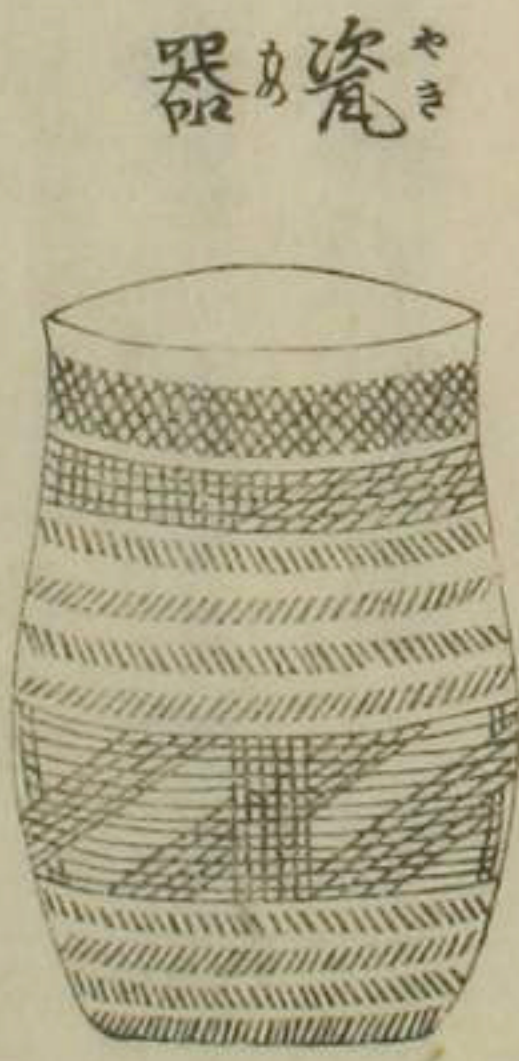
ノニカクニ
館跡之圖

トヲクイ



破目^{この}より^{その}折^ひ東^の城^を夷^すを^強勇^に依^りて^こえ^の好^んど^の圖^をと^りぬ^ゆ多^く兵^を差^をて^下
 不^ま持^ちと^いひ^傳ふ^をこ^のま^う乃^ん士^人か^く既^にシ^ブチ^ヤリ^レシ^ヤム^ヤイ
 ン^ガ之^の乱^い以^て後^に精^一一^の乃^ん祖^父を^ベケ^ラニ^シ乃^ん願^まく^ハ國^争か^むと^死ま^く
 子^モロ^アッ^ケシ^トハ^能く^戦ひ^せほ^シヤ^シコ^ツの^後へ^差寄^りし^り一^と救^を
 ろ^う儲^まく^は生^不乃^ん去^人の^あく^を皆^死后^しく^後と^固燒^一た^かこ^ふ
 産^さ不^あり^今乃^ん去^人こ^の是^城さ^く倭^人の^住居^跡を^りと^いふ^この^まび^と
 い^いの^最ぬ^る精^一一^の乃^ん祖^父を^ベケ^ラニ^シ乃^ん時^代あ^らは^倭人^のま^さり
 て^ある^後も^夷人^を穴^居を^くや^あり^ん城^夷志^を其^寶器^中藏^諸
 地^室と^ある^今其^是穴^居乃^ん例^とす^る必^小が^至る^穴あり^去人^のま^さり
 寶^器入^る也^かる^ると^いふ^と又^も創^地室^をあ^らは^んま^る且^も瘡^の類^を更^に

出^す其^の形^と索^むと^たた^まる^猶鍋^の瓷^器の^類を^振出^す



圖^の如^く内^に積^むる^を云^ふ也^對し^て

素^の焼^くて^は甕^目あり

其^の古^雅な^く様^をく^め其^の全^きの^以得^るの^類乃^も毀^壞さ^るあ
 一^二片^が指^ひか^きたり^さく^この^倭人^のの^いふ^を松^前人^のの^いふ^をあ^らま^り
 より^夷言^のあ^らは^は倭^を按^ずる^を不^要す^東の^中に^アッ^ケシ^の酋^長イ^ニ

東^の版^の類^也

カクシの宿路へ入りつる頃五月乃半紙こまじりが百草水く嫩を
 と抽出し其より名もはらりし昔々一のまふも時を去る瀟公
 莫乃今地盛と咲ぬ其外目もぬ羊のまき地をいとおひら
 十里外と一目ふりし 宿路乃藤へクスリの大川屈曲迂回く水際遠
 く成変は男アカカ女アカカの高津とせども未申ハシラヌカ。シヤクベツ。オホ
 ツナイ此碑と對トラブイよりちほく歳を乃峯ハ南へまぐ 醜藤模
 糊くく盡きんとする取次トカチの碑とま辰巳を湯く方海ありて浸
 凡果まきまじらん大生海まき實小東郊身一乃地景傍地をこのまらある
 登くぞ思つるさくこのとれアツケと知縣ハクスリ川ハ潮をん七泊ありクスリ
 トウふまじりにトコタシとのふ和より書翰を添く櫻花一枝と贈らるかく臨美地

乃你ふ小咲る花も折れぬまじり
 一入色とふあちまはまじりこま月
 十六日のとうり花を繰り日敷十
 六日ありく五月の晦日クスリの
 去和へ伴若一テシカ乃
 下流イシヨビナイあり
 一小禽と後す
 らるに其狀物乃
 大いさくく嘴赤く羽ハ
 熱伴様色なり其名と



鳥玉あま圖

鳥玉あま圖

とぞん 土人子同少カマイチリ 子リ者小 崇めく捕る工と成いす む何ゆる

とぞん 今阿部喜任の考へどゆくあらに附載せ

フユ、ケチ 方言 江南通志山翠といふの日光の方言みやまを予

中禪寺乃湖とありて 鈴とぬるがごとく 言藤巻に似たり 嘴の太

く長くちくちく 形状蓋椒ふ似たり 故一名うがらあまといふ一とやあ

の巻尾乃上と背乃下とに 一道の翠碧毛あり 離より綱とく引るといふ

一種オ小るあり 懸崖の横穴は二尺をり 入至卵と生ト離と育と云

カマイチリ 城ヲユ、ケチリとも 稱少く不列在位かといふ乃山翠の一種あらん

之須利の孝子 孝多并若法因乃孝子 孝次乃事

○クスリ 云取許の土人ハイカシアツといふあり 今名岩城 孝多と改免

たぬりぬこ〜二十八歳父をされ乃〜 病あり果おき今母乃ウレト

の〜 孫里々 八十歳おえり 孝多平生母ははるること〜 栗原

あ〜い〜 母乃あらふ 悴さ〜 日ご終 書美ハ二をり けり

等も〜 けりいひききをかきかの日 稼きふ出る日 書と取ふけりて母

城後ら〜 書の新とるを 綱引きふとつ〜 かのと〜 取

居〜 母をぬ抱き〜 主婦のうち必一人を寸時も母乃例と離る〜

あ〜 孫とあま〜 志実おは〜 母たぬ〜 外の方へ出る〜 せ

負ひ〜 ぐ〜 ぐ〜 も〜 母も〜 帰らん〜 附添ひ居〜 厨あけり

あ〜 より〜 夫人乃〜 平生衣食の形〜 ありぬる〜 乃〜

母の為〜 衣も〜 幾重も米も 糲白お巻〜 たく〜 ち〜 ぬ〜 じ〜 も〜

管史婦ハきらりり三人の小供あり敵衣粗食炊いとをばまき去りあは
はくあきもいさか表裏よく働きたる由名お乃五人が奉止み感あぬ
みしとよりあ政辰年の秋アツケモ乃志操クスリへ出張とまきラムシヤ
行も多につきお人の目知通り沙徳化は腹従一も多尻えらと付
あつてま河裏従乃沙法と昔とまきとにきりて重て去り人ヤはきり
と老男女老幼とも老ふり状の若君仔細よし少くもん月力く二
乃あども中付あきりことあまはと死もあてクスリ出人イカシアツと
中をあ老母おはくると乃法牙次洋よ中出あり和縁のいし尻きり
もゆき死取りるふ夷中の類と異りてみぎたまきりまきり孝公乃
あつても自然ありし頃傾は老死縁あまらり何ぞ中出る乃おきりなる

孝公ハはるラムシヤおつきくお人奴疎里かく呼出し物とまきりおあ
かの孝子へおあきり中関まきりこのあまは其執をまきりしとあり
まきりラムシヤの其目おあり乃お孝多老母と背負ひて来り
孝多の後色よまきりひく去取の玄関茶は踏居まきりお孝多は上座
おまきり中月お賜り物且沙條目とたうらふ徳あまは通洞一は死
うけく其法身とまきり終り別お孝多とまきり通洞かきまきり
夫人お移るる母お孝多乃法牙尚老と孝子等へ中つちくる神妙の事
ありはより箱破へ早し中あぐまきりまきり先高坐乃貴とて五才入乃
米三芭俵入布子三重とまきりありはは後いよ急ることあきり
あまらま老母とまきり孝多史婦ハあを何とふか並居る夫人のそ

貞長... 孝公... 大

中におのこはるのそそ衣と若干揚りるとたか感涙と流し平伏志とぞ
居る室乃と控まの通洞二右忠の元其の方へらむらひ孝公乃考特有
知りくわく乃とく流寒賞をうとさうも次や後ととどく流仁血の肝み
涙とてや考人ふかとも後頭ほさうぬみ流涙とく居たり乃とぞまご同
あき頃中ゼンボウジ乃お人ふコトこととのあり母のケムカワクを先乃
年病の為子死し父チカフコイはと極老お及びく存命をり近頃を
乙名おとあさ乃が今の身体自由らびとく改嫁と法とむるこのあし
どく長子コトシ兼乃おど二十次おえ篤実正直乃實との上力量有
柄元おぬきんぐたどお押て父が政目おあぢらと今改嫁人てふもの老名
と考次とあらふれたまのりぬはりのまより名図利ぬをいさかもさく澤

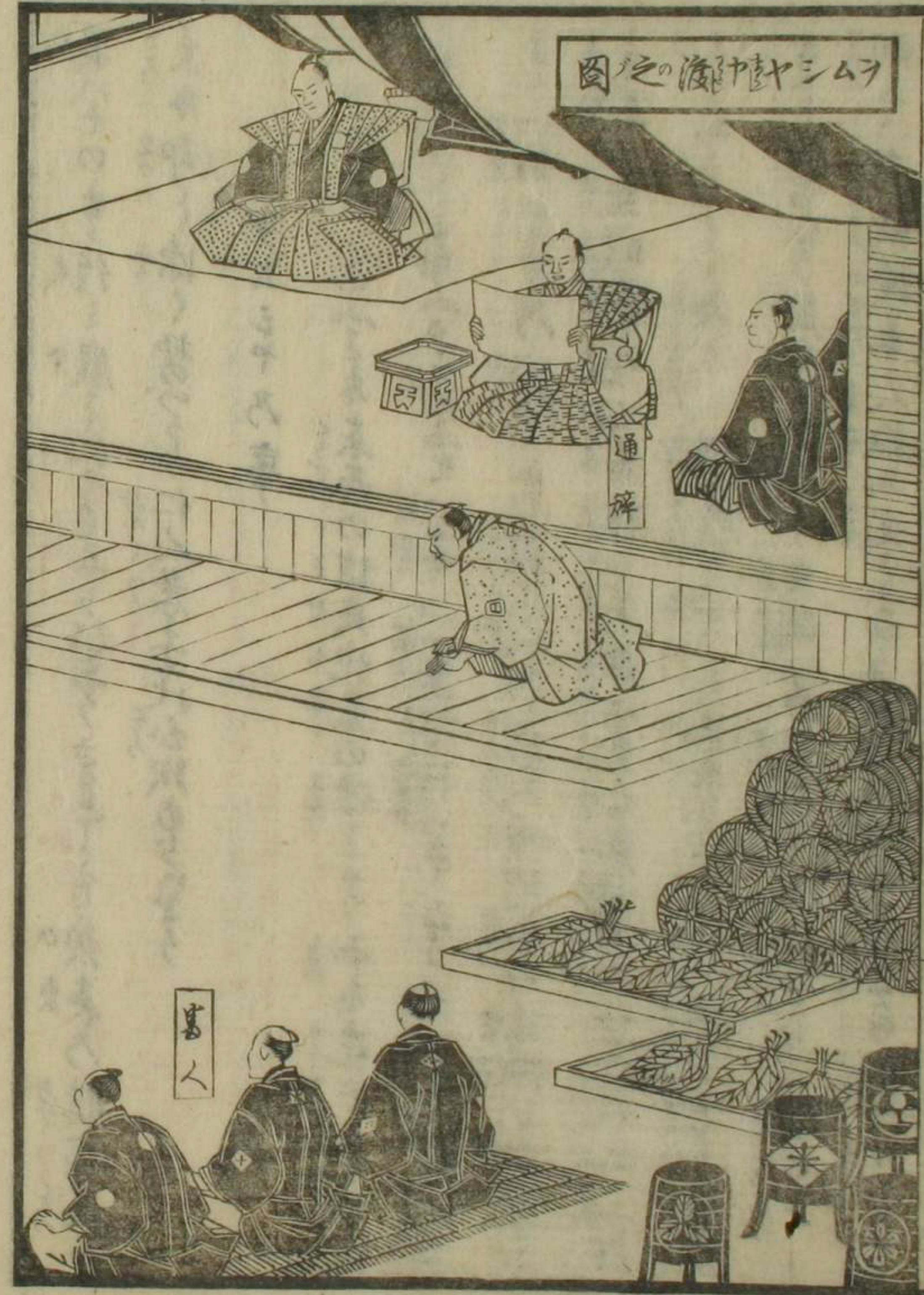
然とくおおつらう孝公城そまへ平日父おはくと悖りさうふといふこと
多く老の弱極まらぬとくあらしひ妻中になれりまうたぬまひ
あまはは死するもの孝賞をさるはは流涙必兼る同産乃老穉を照控
るまおか乃チカフコイへ知縁より私のためありなまははは謝し
さんとも知縁のアツケシへ帰らると死途中へおとまをさるをいひ
おとまは長子孝次お少しゆさまは父のいふまはくおお負ひくクスリ
とアツケシの頃境あるワツカコタンてふ取まぐ出て居たり知縁ハその取へ
来かりぬまは孝次お父お後し後おまうて居たりはま知縁渠等とを
まうつゝ頼子言ふお成かけくゆさるおひさめに父子のあは涙とぬおひ
るが合掌あま志すいさ由得ぎやうと勿論孝公はゆクスリの孝

多と同トく米衣次た多つる孝養のやど欣賞一のひぬ悔夷の地を我
 度内不遠うらねども荒微賤陋の地文字市のバ人備乃後ハ嘗か一志
 多とクスリニ孝子の玉兒を性情の本然るべくまご父兄の喪不孝
 不悌の罪をきき血城をメツカウチとのる此類ありてはこを推
 せ不道をたかく教を没帝提擲警覺志くゆめく恵加少と兒ハ速ふ
 真心の量成後見ましく人天小稟く生まらぬのみ不孝ハはまあり善信
 死者ありては親子兄弟才集ひ屍の彩るアツシ親者を怨のあり
 ホツシ折すのまご善なきを平生子列まう道具袋を添キテ遊小色
 く荒奇乃山蔭へ埋む喪ハ籠まごも七乃吊ひとくあましくぬさび
 墓一死一のつふとふ一踐りるもの其目より親族乃方へ引丸居諸道

具ハそのまゝ位之廢るにまゝありひありまじても然哀乃悽痛疾の
 云を却くゆく抑つら仁人孝子此ハ汝ありしなり

ヲムシヤ乃事

○ヲムシヤといふと東東西の極夷地東の邊より小を売者の夏
 動るまごともあることあり一年小一度づ行つるありあハ夏秋の渡り
 より一切の事乃終るあり熱去人成去呼び集め日限を定め
 と云不の玄關並熱乙名振乙名熱小を去産取まといふ故去人成
 ちどめとく熱去人順席をいへ居るらひ其波ハ女子を去る
 まぐはらるり居りむさく玄關へ去出ハ汝掛こく幕打
 例ハ米酒煙草人救不充くる久おきぬ此時諸五百例の控書を



東洋夷俗
卷之中

西夷夷俗

上

下

凌みあぐるるりこ直次通碎致傷丸夷言不修ちくハ渡ちり其文
左乃てー

一 公使館重ト所制札表兼前ト法度之規整おる中事

エ、バテタ。エントカモイ。エレンカバアセノボ。ニタ、アンツキ。ヒリカナ。
シユイシヤマタ。ヤイカタノ。カンビ。カシテアナエキリ。シカプ子カノ。
フシコトイ。ヲロワ。エバウテンテ。アナアエコラツ。イランマカ、ヤエコ。
ベ、ナレ。ニタ、アレツキ。ヒリカルエ。タバシナ。

一 日々此等中黒沙印お立ハ沙船者勿備責取たるも船被取
これ等 船者別る大切な以て 聊におせりとも 陸へ置返日お取
おとくハ急度船中付事

エ、バテタ。チユプカモイ。ノカ。ヲマイナウ。シヤマタ。ノシケ。クン子。
イナウ。ロシケ。チユプ。イカン子クシユ。シリモシマ。イホク。チユプ。子ヤ
ツカ。カトレンカエ子。シウエンテ。チユプ。アヌワ子ツキ。イランマカ、
ウトヤシ。イシヤンマノ。シユシヤンベ。子ヤツカ。チユプ。ウシへヌイナワ。
バシテ。ワ子ツキ。バアセノボ。イチヤコク。アンナンコンナ

一 沙用状繕立多沙役人通移る前若人長延滞お勅中事

エ、バテタ。トノカンビ。コロヲマナン。シヤマタ。カモイトノウタレ。ウコハエ
カエ。クリ。カシケ。子ヤツカ。ヲロワ。イシヤンマノ。クン子。ヲマナン。アン
クニタバシテヲロ。イランマカ、ヤエコ。ベ、ナレ。アンツキ。ヒリカルエ。タバシナ
一 異國船長被取船等見渡ゆる子速信合沙役人へお届中事

エ、バケタ。ロクント。ヲノ。チユプ。シリモシマ。ヲヤモクテ。チユプ。シヤマタ。
シユエンデ。チユプ。子ヤツカ。エチヌカル。ワ子ツキ。トナシノ。カモイ
トノ。ヲカエウシ。ヲレ子。アシヨロ。アंकニ。ヤエコ。ベ、ケレ。アツキ。ピリ
カルエ。タバシナ

一 持物に俵年に出場し振出精いそいでヤ事

エ、バケタ。コシ子。チヨケ。アナキ子。ケシバケシバ。アツカリ。セヤシ。ウ
コロ。シユツケ。アंकニ。ヤエコ。ベ、ケレ。アツキ。ピリカルエ。タバシナ
火と元丈切あ入と急板マヤ事
エ、バケタ。アベウ子。カモイ。ヤイトバレ。トワシアंकニ。ヤエコ。ベ、ケレ。
アツキ。ピリカルエ。タバシナ

一 持物若勿海諸産物一おせうに船方其外へ交易致さふ控くハ夜重
船て中付事

エ、バケタ。コシ子。チヨケ。イカン子。クシユ。シリモシマ。子フチヨケ。子
ヤツカ。シ子ウコツ。ボカエ。チボグル。シリモシマ。子ヤツカ。ピヨクウ。
ウタレ。アヌワ子ツキ。バアセノボ。エチヤコク。アツナンコンナ

一 常々漁事出精いよ一食料貯置を是支板較一を此物管も
進を掛て中事

エ、バケタ。フシコトエワノ。アナエコラチ。ウラウケトバ。チヨケ。セヤ
シ。ウコロ。シユツケクニ。タバシ。イべハル。子ヤツカ。ヤエムシユカ。アツケ
ウシヤ。テタシケフ。トエタ。子ヤツカ。モエレタラ。アंकニ。ヤエコ。ベ、ケ

百一長英名考 卷之四 十一

レ。エラム。アンテヤン

一 親子見申夫婦状も親類も睦まじく致し養老勿偏執る也
おやこけんけんしんぶつぐさうじょうもおんりゆうもむつまじくさへやしやうらふなむへんしやくするなり

中よ致し男女年頃及ぬれば故人在世後致し縁組為致しヤ事
なかよしさへおんなたうねうらたぬればこじんせいごのち縁ぐみゐさへさへ

エ、バケタ。ウホコロ。ウタレ。イレタレ。シリモシマ。シ子チセウンベ。

ウタレ。シ子ケウトモ。エコロ。アंकニ。ウタシバ。ウトヤシカラフ。ア

ンクニ。タババン。シヤマタ。ツツカエボ。メノコボ。シユクス。ウタレ。アヌワ

子ツキ。ヤクトジン。ヲロワ。イランマカ。ウトヤシカラフ。ウム

レカ。アंकニ。ヤエコ。ベ、ケレ。キイナンコンナ
おんか。あんくに。やえこ。べ、けれ。きいなんこんな

一 出人在私子化場所(まう)の象ふおぬれば若くは授用事(まう)を致し
いでんじんざしわばしよ(まう)のしやうふおぬればわかしくはまうじをさへ

若お宵くふ控ゆる炭重(まう)中付事
わかおよしくふくゆるたんじゆうなかづじ

エ、バケタ。トジンウタレ。アヌン。コタン。ラン子。イトンムツ子。エツ

バニ。カエカトシヨモ。アンベタババン。カトレンガエ子。エ子カリ。エシヤ

ンマン。エツバエカエ。ワ子ツキ。カモイトノヲレ子。シヨカムケレ。ヲロ

ワ。ハエアंकニ。ヤエコ。ベ、ケレ。キイナンコンナ

一 喧嘩口傷若勿偏言(まう)となくみ聊(まう)も償(まう)を若くは授用事(まう)を致し
けんかくちやうわかむへんげん(まう)となくみ聊(まう)もあがな(まう)をわかしくはまうじをさへ

若お宵くふ控ゆる炭重(まう)中付事
わかおよしくふくゆるたんじゆうなかづじ

エ、バケタ。ウコエキ。ウチヤタエ。イカン子クシユ。シユシヤン(子)ヤ

ツカ。ウタシバ。ウコアシケクニ。シヨモ。アンベタババンナ。カトレン

ガエ子。子ワアンヌル。ハエタクニ。コラチ。キイウタレ。アヌワ子ツキ。

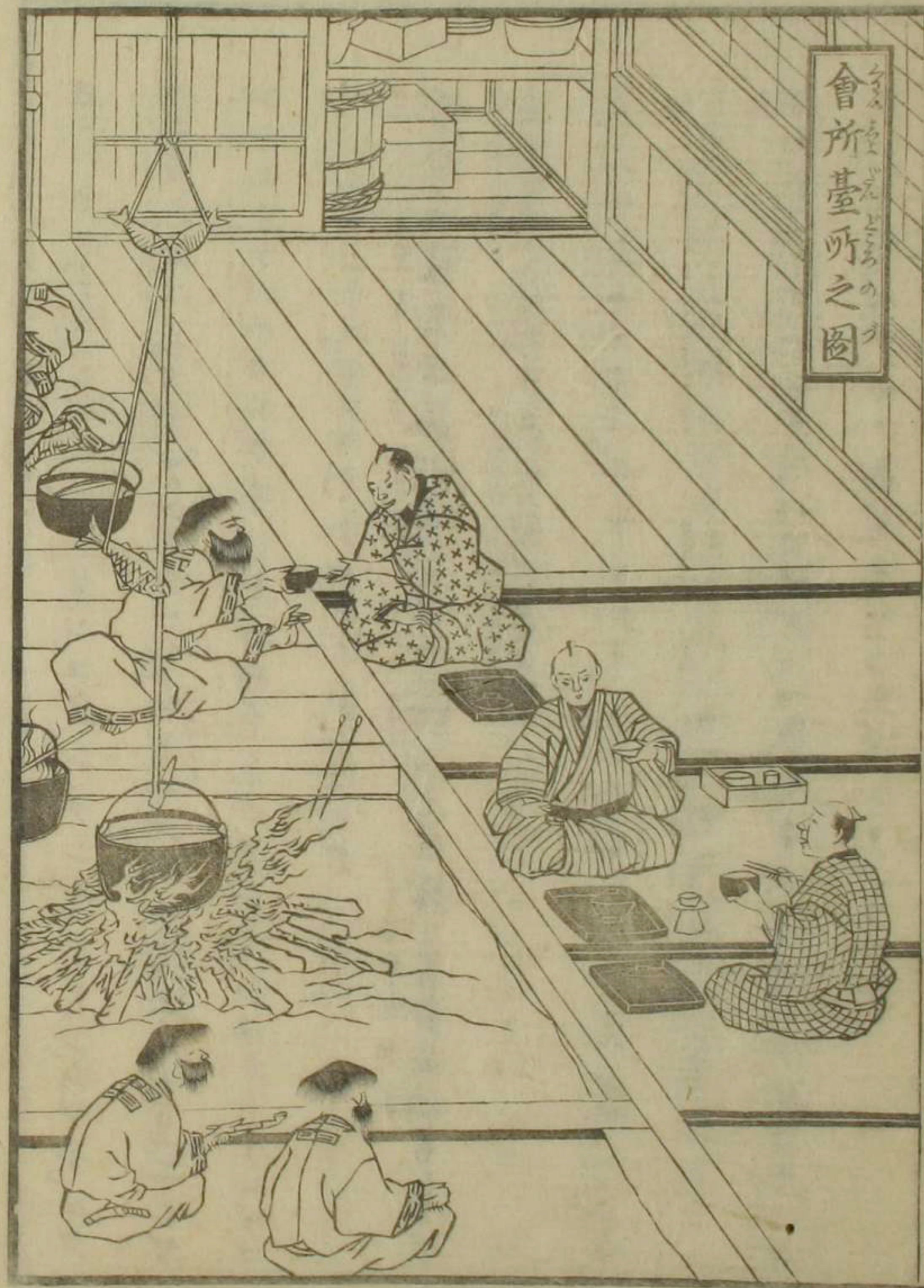
アナキ子。バアセノボ。エチヤコク。アナンコンナ

エ、バケタ。ウコエキ。ウチヤタエ。イカン子クシユ。シユシヤン(子)ヤ

ツカ。ウタシバ。ウコアシケクニ。シヨモ。アンベタババンナ。カトレン

ガエ子。子ワアンヌル。ハエタクニ。コラチ。キイウタレ。アヌワ子ツキ。

アナキ子。バアセノボ。エチヤコク。アナンコンナ



一 會不支配人番人子孫をまぐ（イラン人の子孫をいふ）隨分親しく（おなじく）行し（なす）其正能分（そのまゝに）表（あらわ）す（こと）なり（こと）と申す事（こと）

エ、バケタ。ヲヤカタ。子クル。シリモシマ。ウセ。シヤ、モ。ヲロバツクノ。イランマカノ。シ子ウケトモ。エコロアンクニ。タバシ。子ワアンニ。ク
 リカシケ。ウシヤ。コウエンウタレ。アヌワ子ツキ。シヨカムケレ。
 アンツキ。ピリカルエ。タバシナ

（イラン人の子孫をいふ）右之通中流の習其外中流の流に相守者也

シイ。シカ。フ子カノイタキ。サンルエ。タバシナ。タンベ。モシマイ
 タキ。サンルエ。アナアエコラ子。イランマカノ。ヤエコベ、ケレ。
 ニタ、。アンツキ。ピリカルエ。タバシナ

斯くの如く申し聞きまゝ改め今度決願するまじは地夷地想也
（いづれも）人ども（決意）後流乃（中）流（に）こゝろあり其文たのごとく

一 是度先年之通り タシゴタ。ヘンバテ。コラ子。 東西 チユ。フカ。
 ヲロワ。チツフ。ニンケシ。ヲロバツクノ。 エンド。シマフ名。カモイレシカ。アン
（イラン人の子孫をいふ）公色（決意）直支配（中）流（に）作（中）流（に）存（中）流（に）る（中）流（に）若（中）流（に） エンド。シマフ名。カモイレシカ。アン
 ルエ。タバシ。グシユ 土地之者在（中）流（に）接（中）流（に）育（中）流（に）方（中）流（に） タバシ。ウタレ。ヲビツタ。ウ
 レシバ。カト。子ヤツカエキ。 其外於（中）流（に）流（中）流（に）級（中）流（に）人（中）流（に）より厚（中）流（に）く（中）流（に）世（中）流（に）作（中）流（に）る（中）流（に）事（中）流（に）あり
 シリモシマノ。タバシカモイ。ヲロワ。イランマカノ。イトヤシカラフ。
 アンルエタバシナ。 経（中）流（に）有（中）流（に）相（中）流（に）心（中）流（に）得（中）流（に）て（中）流（に）ヤ（中）流（に） イコバセ。ヤイライケレ。クニ。エ
 ラムアンテヤシ。 在（中）流（に）漁（中）流（に）業（中）流（に）働（中）流（に）方（中）流（に）之（中）流（に）後（中）流（に）若（中）流（に）是（中）流（に）追（中）流（に）之（中）流（に）通（中）流（に）り（中）流（に） シヤマタ。エツコ

コウラウケトハ。チヨケ。セヤシカト。イカニ子。クシユ。あまのこ 支死人あまのこ 人
きりぎり 差馬を渡橋出。マヤカ子クル。ウセシ。ヤモ。ヲロバツ
クスアナエレンカ。シヨモ。ハエダクニ。キイナニコナ。

一 涉園あふのこ 之言ことば 系ぎ 成なり 法は 久ひ 以も 勝か 手て 必かな 然しか 也なり
えぞ 一 海夫人あまのこ 在あ 原はら 之の 傍そば 住す 居る 故ゆゑ 小こ 場ば 和わ 限り

シ、ヤモコタン。イタキ。キルシユウ。ウタレ。ケウトモ。レンカエ子。イ
キヤン。えぞ 幼童之者あまのこ 也。シユウクナ。ウタレ。子ヤツカ。あまのこ 習ま 志し 在あ 小こ 振び
あまのこ 不ふ 事こと ヤエ。エチヤコク。エラムアンテツキ。ピリカルエ。タバンナ。

一 海夫人あまのこ 在あ 原はら 之の 傍そば 住す 居る 故ゆゑ 小こ 場ば 和わ 限り 正ただ 一ひと 巴は ケタ。アイノウタレ。コロ
コタン。子ナエアンベ。えぞ 海組あまのこ 故ゆゑ 住す 居る 故ゆゑ 小こ 場ば 和わ 限り 正ただ 一ひと 巴は ケタ。アイノウタレ。コロ

カイキ。えぞ 年頃不相あまのこ 當あ 者もの 也。不ふ 宜よろ 也。ウダシハ。シユウグフ。カ

チヤマ。ウエンルタバングシコ。えぞ 已あ 未ま 外あ 場ば 不ふ 由よし 也。勝か 手て 必かな 然しか 也なり

イマカケワ。アヌ。ヲロワ。子ヤツカ。レンカエ子。ウムレカ。アングニ。キイ
ナニコナ。えぞ 男女あまのこ 在あ 原はら 之の 傍そば 住す 居る 故ゆゑ 小こ 場ば 和わ 限り 正ただ 一ひと 巴は ケタ。アイノウタレ。コロ

ヲツカエボ。メノコボ。子ヤツカ。シ子フ子ワ。イシヤレマノ。クニ。子ヲツツ
ナウタレ。コンツカイウタレ。イランマカ。ウトヤシカラプ。アンテケ。
あまのこ 土地あまのこ 繁あ 昌ま 及あ 小こ 振び 不ふ 事こと タバン。コタン。シビア。シヨロ。アングニ。ヤ

エコ。へ。ケレ。アンツキ。ピルカルエ。タバンナ。
あまのこ 一 嘉あ 保ま 寺てら 若わ 温あ 言ことば 故ゆゑ 信ま 信ま 不ふ 苦く 也。正ただ 一ひと 巴は ケタ。チセ。アル

カルカド。カチヤク。ルエタバングシユ。ウシヤ。シウエンテ。キイナニ
コニナイカマカケワニノアリ。ソツケ。コロワ子ツキ。エコニ口。エサン

マノア^{そのちうでん}ニルエ子ナ。其外^{そのちうでん}田島^{とも}等も^{せんぐ}精^{しん}公^{こう}掛^け。子ワ^{そのちうでん}ア^んベ^べ。クリ。カシ

ケダ。トエタ。子ヤツカ。ヤエケシトエワ。食料^{あじふ}貯^{たくわ}ハ^た振^びて^て救^{きう}農^{のう}具^ぐ種^{しゆ}。お

等^{しう}若^わ形^か水^{みづ}先^まお^お渡^{わた}て^て中^{ちゆう}。イ^いハ^ハル。子ク^{そのちうでん}シ^しベ^べ。ヤエムシエウカ。アレクニ。タバ

シ。トエタクニ。ビエ。シヤマタ。ツエキス。子ヤツカ。コ^{そのちうでん}ニル^るシエウエ。ウタレ

シヨカムケレ。ワ子ツキ。アサレケ。ナ^{そのちうでん}ニ^んコ^んナ。其外^{そのちうでん}髪^{かみ}と^と結^{むす}ひ^ひ月^{げつ}代^{だい}

規^{その}刺^さ了^{りょう}湯^ゆ入^い入^い乾^{かん}。子ワ^{そのちうでん}ア^んベ^べ。モシマ。モト^{そのちうでん}リ^り。シナシメムケ。シフ

ライ。子ヤツカ。徳^{そのちうでん}而^に涉^{せつ}園^{えん}之^の風^{ふう}俗^{じやく}と^と学^{まな}び^びた^た也^{なり}。シ^{そのちうでん}リ^りモ^もシ^しマ。ヤ

エカタ。シ、ヤモコタレ。ア^{そのちうでん}ン^んベ^べ。ブクイゴサバ。ア^{そのちうでん}ニル^るシエウ。ウタレ。レ

シガエ子。ヤエ。エチヤコククニ。涉^{そのちうでん}許^こ之^の由^{よし}自^{みづか}遊^{あそ}む^む公^{こう}館^{くわん}で^で中^{ちゆう}事^じ

モエレ。タラ。子ヤツカエ。アラムア^{そのちうでん}ン^んテ^てク^くニ。ヤエコ。ベ、ケレ。ア^{そのちうでん}ン^んツ

キヒルカルエタバンナ。

一 薩^{そのちうでん}夷^い人^{にん}簪^{かん}笠^{かさ}等^{とう}靴^{くつ}等^{とう}用^{よう}お^おの^のた^たの^のた^た病^{びやう}疾^{じやく}治^ちす^す。エ^{そのちうでん}バ^バケ^ケタ^タ。ア^{そのちうでん}ニ

ノウタレ。ムシエ。バラ^{そのちうでん}コ^こン^ん子^し。ム^{そのちうでん}ニ^んア^アシ^しベ^べ。シヨモ。エ^{そのちうでん}コ^こロ^ろワ^ワク^クシ^シユ^ユ。ウ^{そのちうでん}シ^シヤ

シユエ。ア^{そのちうでん}ン^んナ^ナコ^こン^んナ。以^{そのちうでん}来^{らい}運^{うん}上^{じやう}倉^{そう}裏^らを^をより^{より}相^あ求^{もと}勝^{しょう}也^{なり}。先^{そのちうでん}身^みお^お用^{よう}ハ

振^{そのちうでん}て^て救^{きう}事^じ。タ^{そのちうでん}ン^んベ^べ。イ^{そのちうでん}マ^マカ^カケ^ケ。ヲ^{そのちうでん}ロ^ロワ^ワ。カ^{そのちうでん}エ^エソ^ソ。バ^{そのちうでん}ン^んヤ^ヤ。ヲ^{そのちうでん}ロ^ロワ^ワ。子^{そのちうでん}ヤ^ヤツ^ツカ。

ソエ^{そのちうでん}コ^こロ^ろア^アン^んク^くニ^ニ。タ^{そのちうでん}バ^バン^んナ。

一 死^{そのちうでん}人^{にん}を^を其^{そのちうでん}火^か焼^やけ^け掃^はひ^ひ。エ^{そのちうでん}バ^バケ^ケタ^タ。子^{そのちうでん}セ^セ。シ^{そのちうでん}ヤ^ヤン^んベ^べ。コ^{そのちうでん}ル^るゴ^ゴ子^しエ^エ子^し

ア。子^{そのちうでん}セ^セ。ヲ^{そのちうでん}フ^フエ^エカ^カ。他^{そのちうでん}も^も振^びて^てお^おの^のた^た其^{そのちうでん}場^ば不^ふお^お思^しも^も奉^{ほう}身^{みん}

ヲ^{そのちうでん}ヤ^ヤチ^チセ^セ。ヲ^{そのちうでん}レ^レ子^し。ヲ^{そのちうでん}カ^カエ^エカ^カ子^し。ア^{そのちうでん}ニ^んル^るイ^イ。子^{そのちうでん}ア^アワ^ワ。ク^{そのちうでん}シ^シユ^ユ。子^{そのちうでん}ア^アコ^コタ^タン^ん。ウ^{そのちうでん}エ

ン^{そのちうでん}テ^テ。ク^{そのちうでん}ニ^ニシ^シリ^リ。ア^{そのちうでん}ン^んナ^ナコ^こン^んナ。以^{そのちうでん}来^{らい}其^{そのちうでん}仕^し事^じを^を改^かめ^め永^{えい}久^{きう}治^ちす^す振^{そのちうでん}

カミクンベタバンナ
イヤカケワ。子ワイキリ。エシヤンマン。シロマヲカエ

アングニ。ヤエコベ、ケレ。アングニ。タバナ。

一 男女在髪と切て耳の掛女子の口乃より首等子
エ、バケス。

ラツカエボ。メノコボ。バアルトエハ。ニンガリ。ラツケ。メノコボ。子ワ子ツ

キ。チヤロ。ヲロワ。テケ。シカフ子カノ。
入屋波衣を浪る好ま不

中者相止て中
シヌ。エカト。シヨモ。ラムシマクル。アナキ子。子ノ

カエテケ。キンヤツカ。ヒリカルエ。タバナ。
此後此世之男女在

右之梳は相お侍を度く津國之風俗よあつひ成人を後外を徳と乃仕
合よて相お事

タンヘ。イマカケワ。シエウクブ。ラツカエボ。メノコボ。

子ヤツカ。子ワアンマル。エラムアンテワ。ヤエカタノ。シ、ヤモコタン。

ブリシト。リ、コル。子ワツキ。ウヲノシ。ウタレ。ヲカエ。アナヲ子コタ
ン。カミクンベタバンナ

右之條は収美人在能く去侍いた
シリ。シカプ子カ。ラツトナ。

コンヅカイ。ウタレ。イランマカ。エラムアンテワ。ウタレ。ケセ。ヲロ

バツクノ。ニタ、アングニ。
事乃者速不浪振ニテ事

ベ、ケレ。アンツキ。ピリカルエ。タバナ。

アツケシあくの通辨利兵満クスリあての三在博門子モ口にその傳翁

右乃傳文坂渡手と上座の山紋人蓋とよりわげイクバシユイと右の

は持ち一杯飲みく次の後と蓋とをまより物と名とよりめ取と人へ

蓋とをとりあこの如く試法をその自の蓋と居る男女の押のが蓋と把て

百八段次右

卷之中

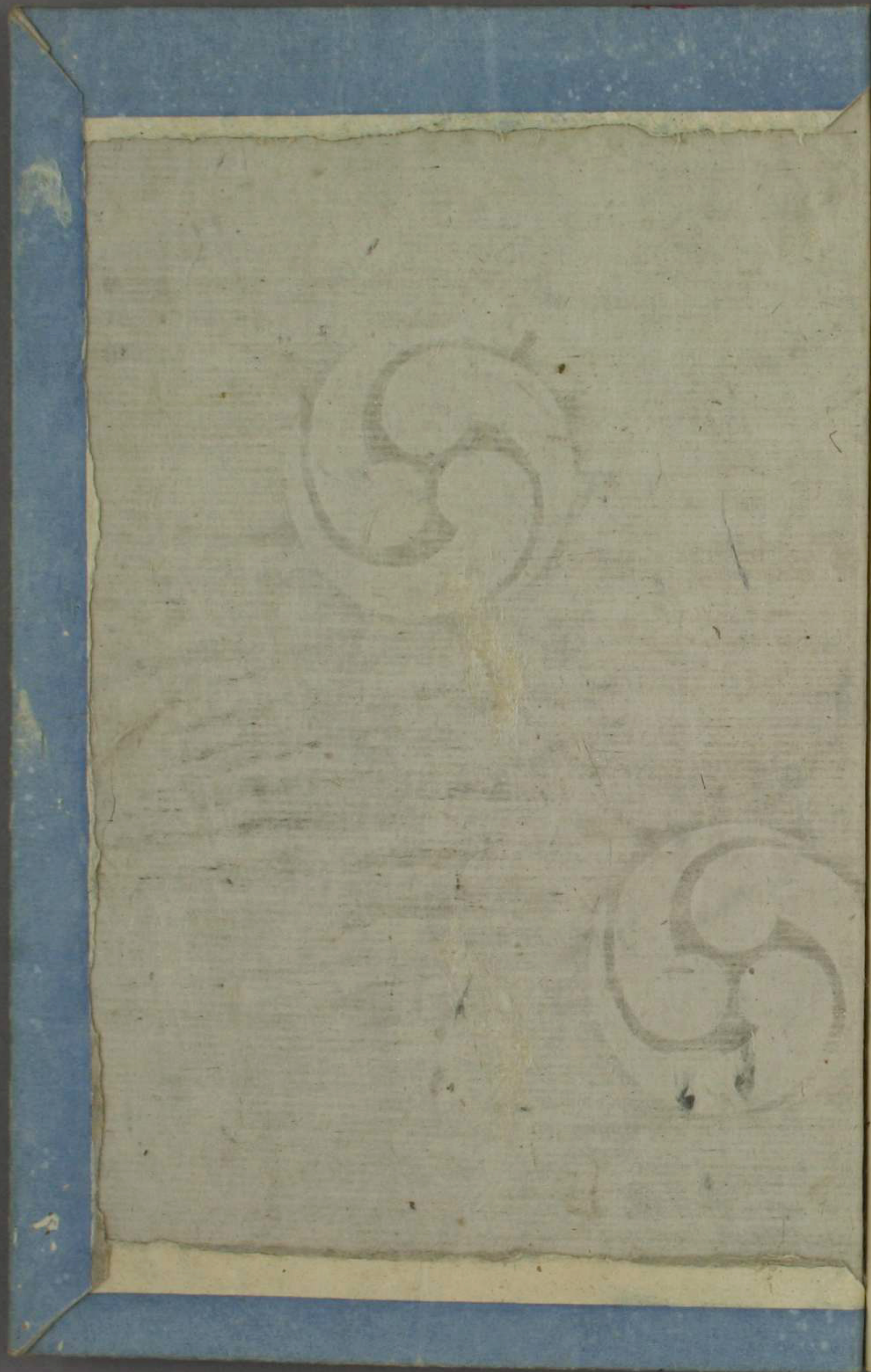


庚申好日
Mitsunobu no Ichi no

只此卷中

卷之中

美



Blank page with a rectangular border and faint bleed-through text from the reverse side. The bleed-through text is arranged in vertical columns and is mostly illegible due to fading. On the right edge, there are some handwritten characters and a small mark.

Vertical text on the right edge (likely bleed-through or marginalia):
夏
野
山
記
卷
之
一
三

